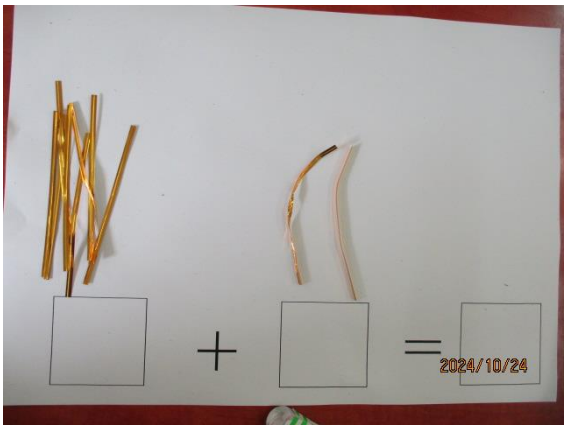
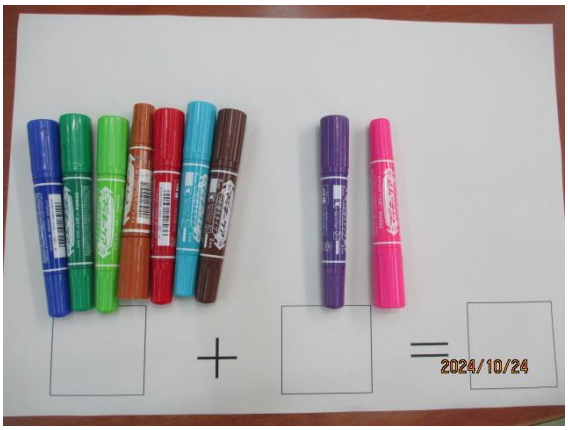
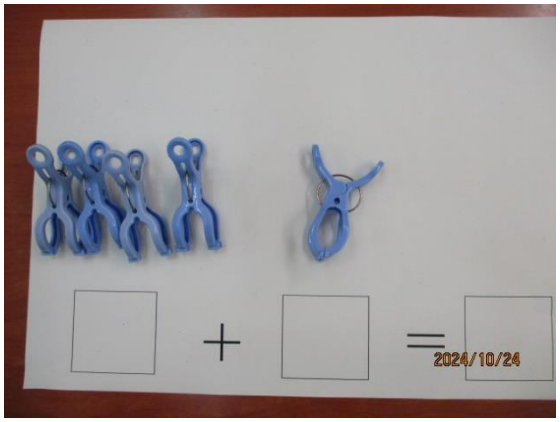
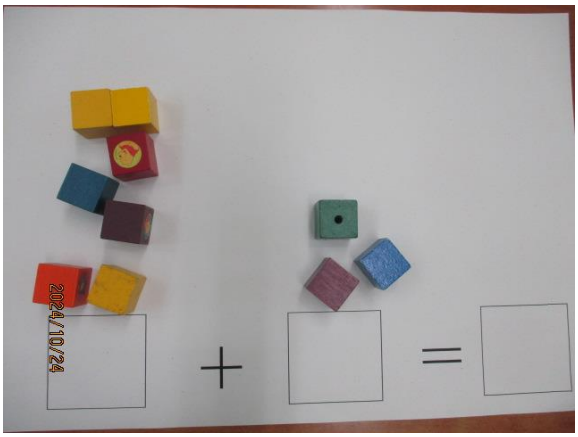
<table>
<tr><td>1
年</td><td>算数</td><td>「あわせていくつ　ふえるといくつ」
8時間</td><td>概
要</td><td>学習環境、具体物</td><td>適　○</td></tr>
<tr><td>手
立
て</td><td colspan="2">・全体の時間には、教師主導で絵カードやブロック操作のみ行うのではなく、児童が主体的にたし算について考えられるように、児童が選んだ具体物で計算について考えたり問題を作ったりする場を設定する。計算や発表に使う具体物は、自分の身の回りの鉛筆等でもよいが、具体物のコーナーを用意する。用意した物はブロック等、自由に選べるようにする。実態に合わせて、粘土や普段使っているおもちゃも準備する。(個別)
　段階的な支援として、個数と数字の一致や「たす数」や「たされる数」が混乱しないように、数字の書いたケースや袋を用意し、具体物を入れられるようにする。(個別・協働)
・それぞれの児童が作った問題に取り組むことで、友達との考えの違いを感じられるように言葉掛けの支援をする。(個別・協働)
・個別課題のワークシートを何種類か用意し、３枚目以降は、なるべく児童が自ら問題数や枚数を選択できるようにする。(個別)
・まるつけは、先に付けた方が良い児童と全て終えてから付けた方が良い児童がいるので、実態に合わせて行う。</td><td>児
童
の
様
子</td><td colspan="2">・具体物を数える活動や数に関するワークシートに取り組んできたが、自分で具体物を選ぶことで、より意欲的に一つ一つ指差しして確認しながら数えた。１０までの具体物でも数え間違いもあったので、A学級で具体物を数える活動は大切だと思った。
・児童が作った問題に取り組む時に、自分の問題と友達の問題を比べ、気付いたことを呟く児童が３人いた。
・初めは自分の持ち物から具体物を探した。鉛筆等を使ってたし算の式を作った。やることが分かると、２時以降は具体物コーナーから自分が式に使いたい物を探し操作して、立式することができた。
・毎回、自分で作った問題を書き込む計算シートや友達の問題と答えを書き込む計算シートを同じ形式で行うことで、児童が活動に慣れ、主体的に活動することができた。計算シートを配布すると、児童はすぐに活動を開始することができた。
・児童が10以上の数を数えられる児童がいるので、具体物を10個ずつ置いてみた。しかし、答えが大きい数の問題を作ってしまい、他の児童にとって問題が難しくなってしまった。答えが10になるように問題を作ることを条件にあげると、皆が取り組める問題を作ることができた。</td></tr>
<tr><td>成
果</td><td colspan="2">・具体物コーナーを設けたことで、全員が問題作りをすることができた。
・色々な具体物で数を数える体験的な活動を取り入れることで、理解も深まり、立式したり答えを求めたりする学習がスムーズだった。後に、ブロック操作に移行しても、戸惑うことなく計算することができた。
・毎回、同じ形式のシートで、具体物を使って、立式したり答えを出したりすることで、児童が見通しをもって活動できた。</td><td>課
題</td><td colspan="2">・毎回、児童が作った問題を写真に撮って、ワークシートに貼る作業が、共有カメラが使用中の時もあり大変だった。
・具体物のセットを用意しておいたが、初めは数を５個に限定する必要があった。限定しないと答えが10以上になるような問題を作ってしまうことがあった。教員が５個のセットを用意し、答えが10までになるようにしていた。活動に慣れた後は、10個のセットにしても、答えが10までと伝えると、理解して問題を作ることができた。</td></tr>
</table>


2024/10/24


2024/10/24


2024/10/24


2024/10/24